

ロボット物流業務、実運用を開始

TSIホールディングスグループ

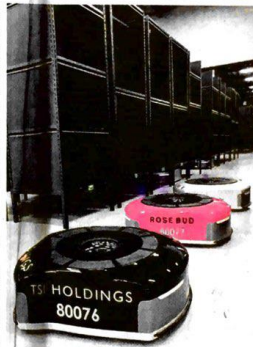
ハンガー商品、雑貨も プラットフォームの共同利用へ

TSIホールディングスグループは3日、ロボット物流業務の実運用をプロダクトパーク千葉ニュータウンで始める。「ロースパッド」の店舗向け19年春夏商品の入荷・出荷業務に自動搬送ロボットを活用する。BtoB（企業間取引）でアパレル、雑貨とも対象とする本格的なアパレル物流へのロボット活用となる。グループの生産・物流機能を管理するTSI・プロダクション・ネットワーク（TSIPN）が、アッカ・インタナショナル（アッカ）、プロダクト・水岩グループのEMジェイ・ファンクション（MJF）と3月に共同プロジェクトを立ち上げ、検証してきた。

作業者は動かずに

TSIPNは1日付で、3社とロボット物流業務について業務提携した。アッカの倉庫管理システムに、中国キークラスのロボットシステムと水岩グループの倉庫管理システムを連携させ、プロダクトの物流施設で入出荷業務にロボットを活用する。入出荷とも作業者は動かず、作業ステーションにロボットが棚を運んで来る。入荷業務では、まず店舗へすぐ出荷する商品を人手で出荷工程に流す。一時受けの工程を設ける。その後工程で作業者が商品を入れた棚をロボットが保管スペースに運ぶ。出荷業務では作業者が指示された商品を棚からピックアップする。

まず、2600平方メートルのスペース30台のロボットを使い、ロースパッド春夏商品の物流業務でのロボット運用を始める。同ブランドの倉庫を千葉に集約できる来春には本格運用を開始する。スペース・使用ロボット



自動搬送ロボットと移動式棚はオリジナルのカラーリングも施した

を順次拡大し、プロダクトパーク成田への導入も予定している。TSIホールディングスグループはICTシステムの活用準備を進めており、これらも合わせ、先進的なアパレル物流ロボティクス構築を目指す。

ハンガー商品も含む店舗向け商品の入荷業務にロボットを使う事例はこれまでになく、ロボットが自動搬送する移動式棚は、TSI向けにアレンジしたハンガー用も作った。プロダクトの施設でキークラスのロボットを実運用するアッカ、TSI

でのロボット活用は難しいという見方も多いが、人手不足による人件費高騰・物流品質の低下は、人手だけに頼っているだけでは、人手だけに頼っているだけでは解決できない」とロボット導入を決めた。

また、「入荷が止まれば出荷も止まる」と、入荷業務からの採用を当初から検討した。出荷業務はロボット導入で70%の作業効率改善が見込める。しかし、入荷業務は「安く速くする」のではなく、まず昨年のようなことを起こさないことを優先する。方針。人とロボットを組み合わせ、PDCAを回すことで、おのずと効率は上がるとみている。

既にプロジェクトの設備から多くの問い合わせが寄せられている。元々、グループ企業への販入も想定されているから「基本はオープン・プロジェクトのコンセプトもN対Nだ。アパレル物流ロボットプラットフォーム共同利用への業界からの期待もあるようだ。

入荷業務から検討

物流センター業務自動化の検討は人手不足が背景にある。直接のきっかけは、17年11月に入荷商品が多すぎてはき切れず、店舗への出荷が一時止まってしまったため。「業界にはBtoB